

水前寺江津湖公園に求められた都市機能に関する研究

熊本大学工学部社会環境工学科 学 ○森岡 晃史
熊本大学政策創造研究教育センター 正 田中 尚人

1. 研究の背景と目的

熊本市は樹木の多い自然景観に恵まれた都市であり、1896年（明治29）に夏目漱石が評した「森の都」の愛称で市民に親しまれている。なかでも本研究の対象地である江津湖は、熊本市の東部に位置する豊かな水辺や緑地をもつ貴重な地域資源である。江津湖は、時代のニーズに対応して、さまざまな年代の利用者の幅広い活動を受け入れてきた行楽地として、多様な進化を遂げてきた。

これまで、江津湖周辺地域の風土形成の変遷と熊本市における広域的な江津湖の位置づけを詳細に記録した先行研究は存在しない。そこで本研究では水前寺江津湖公園の空間整備の歴史、自然環境、公園の管理・運営状況を調査することで、江津湖が創造的な公園整備を反映して、熊本市民にとって地域に根差した「憩い」の空間となってきたことを明らかにする。

2. 江津湖周辺地域の成り立ちと求められてきた機能

時代の推移とともに公園に求められる機能が変化してきた。江津湖は各時代のニーズに対応し、さまざまな年代の利用者の幅広い活動を受け入れてきた行楽地であることを把握する。

2.1 江津湖周辺地域の概要

雨量の多い熊本は、豊富な水の恩恵を受ける一方で、大雨による被害を受けやすい土地であり、古くから水害対策が行われてきた。加藤清正による熊本城築城と城下町整備のための河川改修事業もその一例である。この事業により熊本市の東南部に位置する江津湖が形成された。近年ではその防災対策の一環として都市計画および公園計画が立案され、江津湖は周辺に立地する健軍神社や成趣園とともに市民の憩いの場として親しまれてきた。

2.2 江津湖周辺地域の風土形成過程

熊本県、熊本市の都市計画の流れと、江津湖周辺の整備概要を表-1に示す。1930年（昭和5）の水前寺・江津湖風致地区指定後、市総合体育、県立図書館、青年会館、熊本市動植物園などが市内各地から公園敷地内に移設された。元々ある豊かな水辺や緑地とも相まって、長い年月を経て今もなお、人々の憩いの場として広く利用されている。

表-1 熊本都市計画と公園整備の概要

西暦	和暦	都市計画の動き
1919	大正8	04.05 都市計画法(旧法)公布
1920	大正9	01.01 都市計画法施行
1923	大正12	07.01 熊本市に都市計画法が適用
1925	大正14	04.01 水前寺公園(6.11ha) 開園
1929	昭和4	07.25 水前寺動物園(出水神社所有地・市有地) 開園
1930	昭和5	12.01 熊本都市計画風致地区が内閣より認可 12.26 水前寺地区(38.2ha)・江津湖地区(214.04ha)が内務省より風致地区に指定
1958	昭和33	09. 市立体育館(水前寺公園東側) 完成
1960	昭和35	05.11 江津湖公園(上江津地区22.1ha)を都市計画決定
1962	昭和37	08.01 水前寺公園(6.5ha)・下江津緑地(70.6ha)を都市計画決定
1964	昭和39	03.19 江津湖公園(21.3ha)を都市計画決定
1966	昭和41	12.24 江津湖公園(45.39ha) 開設
1969	昭和44	04. 熊本市水辺動物園区(下江津地区) 開園
1972	昭和47	10.02 森の都宣言 第1次都市公園等整備五箇年計画策定
1973	昭和48	02.28 森の都推進会議要綱施行 10. 緑に関する条例施行 11.09 江津湖公園(104.0ha)が都市計画決定、下江津緑地と江津湖公園が合併
1977	昭和52	06. 熊本市都市公園条例制定
1981	昭和56	06.05 水前寺・江津湖公園基本計画構想を県が策定
1972	昭和57	07.29 特殊公園水前寺公園と広域公園江津湖公園が一体化して 広域公園水前寺江津湖公園(126.6ha)として都市計画決定(共用面積は92.2ha)
1983	昭和58	02. 水前寺江津湖公園の出水地区(7.7ha)が整備開始 04.04 森の都推進会議要領施行 12.27 風致地区の見直し 水前寺風致地区は10.0haに縮小、江津湖風致地区は238.0haに変更
1985	昭和60	06.06 水前寺江津湖公園(126.5ha)が都市計画決定 08. 広域公園水前寺江津湖公園の面積が126.6haから126.5haに変更 10.16 新県立図書館(出水地区) 開館
1986	昭和61	07.09 市総合体育館・青年会館(出水地区) 開館
1989	平成1	06.01 熊本市緑地の保全及び緑化の推進に関する条例 施行
1992	平成3	10.01 都市緑化植物園(熊本水辺動物園西側) 開園
1994	平成5	緑化推進基本計画策定
1996	平成7	09.25 環境保全都市宣言
2004	平成16	03. まちづくり戦略計画 策定
2011	平成23	09.01 一般社団法人熊本市造園建設業協会 設立
2012	平成24	04. 熊本市造園建設業協会が水前寺江津湖公園の指定管理者を受託

2.3 江津湖が果たしてきた役割

前述のようにさまざまな公園整備を経て、江津湖周辺は現在、私達が目にする姿になった。

3. 江津湖公園の施設整備にみる憩いのしつらえ

現在の整備図面と過去の計画資料を分析することで、江津湖公園は各時代のニーズに対応して多様な公園整備が行われ、現在に至るまで熊本市民にとって身近な憩いの空間として存在し続けてきたことを把握する。

3.1 水前寺江津湖公園のしつらえ

水前寺江津湖公園（総面積 126.5ha）は、一級河川加勢川を中心として延長約 2.5km にわたる公園であり、多様な景観を呈している。熊本市南東部のみならず熊本都市圏において核となる公園であるとともに、多様な植物や動物が生息することから、自然環境の保全を前提としながらも市民に親しまれる水辺レクリエーションの場を形成することを目的とした公園整備が行われてきた。

3.2 各地区の施設概要と設置意図

現在まで水前寺江津湖公園に関する計画や構想が数多く立案されてきた。このうち、本公園全体にわたって計画を行い、水前寺江津湖公園の利用と整備のあり方についての基本方針となるものとして1981年（昭和56）に策定された「水前寺江津湖公園全体計画（案）」がある。

表-2 水前寺江津湖公園地区別計画要旨

地区名	思想	施設計画
水前寺地区	成趣園を核とした公開庭園	公開庭園、資料館、成趣園アプローチ
出水地区	江津ガーデンポール、協和発酵跡地を公園化し、カルチャーパーク地区として整備	体育館、集会所（青年会館）、図書館、市民広場、遊戯広場、和風庭園
上江津地区	上江津湖北東部にある空開地を核とした子供文化園地区	遊びの流れ、滝、森、河原、水面、ポート乗り場、釣場、魚を捕るせせらぎ
中江津地区	上江津地区と下江津地区を結ぶプロムナード	散策の水辺
下江津地区	水辺動物園、都市緑化植物園を核とした動物園地区	動物園、散策の水辺、市民広場、遊戯広場
荘口地区	子供からお年寄りまでが利用できる日常的計スポーツ公園地区	軽スポーツ園
広木地区	低湿水田地帯を利用した田園景観地区	水郷のある風景、堤塘の景観、野鳥の森、汀、サンクチュアリー、観察舎、自由広場、ピジターセンター

現在の水前寺江津湖公園はこの計画案を基礎として地区ごとに検討を重ね、整備が行われた。（表-2 参照）

3.3 親水空間と憩い空間の創造

前述の計画案では、江津湖公園の位置づけとともに基本的な考え方を以下のように提示している。現地調査と現在と過去の整備図面の比較・分析により計画・設計思想が達成されていることが確認できた。（写真-1, 2 参照）

「現在の水前寺公園と江津湖公園を一体的にとらえて、自然諸条件の保護・保全を前提にそれを楽しむ風致公園的要素と休息、鑑賞、運動等の利用にも応えられるよう総合公園的要素を兼ね備えた広域公園として整備する。」



写真-1 親水空間



写真-2 利用する人々

4. 憩いの空間活用と発展

江津湖の利用状況とサイン調査から、現在の江津湖の利用像を把握する。

4.1 活用事例

水前寺江津湖公園の水辺や広場、園路、施設を利用したイベント等は、現在も四季折々に多様な利用団体により、多様に企画・実施されていることがわかった。

4.2 サイン調査からみる空間活用

前述の計画案にはサイン計画についても記述があった。

広木地区については、自然豊かなフィールドミュージアムと位置づけ、生息する生物に関する説明板を設置する。この説明板の設置されたコースを巡り、自然を見ることで江津湖周辺の生態系の成り立ちへの理解が深まるように考慮されていた。（図-1 参照）

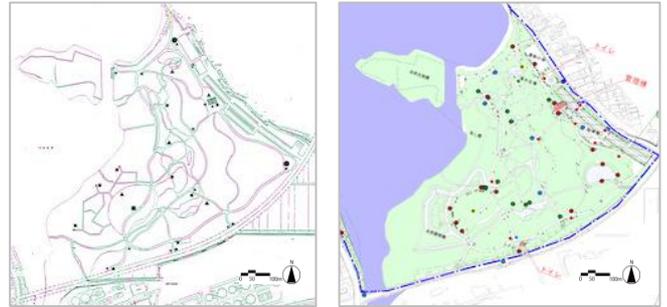


図-1 昭和56年のサイン計画



図-2 現在のサイン配置

現地調査で得られたサインをプロットしたものを図-2に示す。生物に関する説明板は計画に沿って設置されていた。また、位置・数は現状と異なることが確認できた。種類別にみると、公園の利用マナーに関する内容のサインが多くみられ、人々に利用されている空間であることがわかった。（表-3, 4 参照）

表-3 意味別のサイン基数

標識タイプ	基数	デザイン数
記名標識	入口標識	2
	公園名碑標識	2
案内標識	誘導標識	3
	案内図標識	5
	利用案内標識	11
解説標識	ポート標識	5
	生物	13
	江津湖	1
注意標識	その他	2
	禁止標識	18
啓発標識	0	0

表-4 種類別のサイン基数

種類	基数	デザイン数
犬（ペット）に関するマナーアップ	20	3
ゴミの投棄	18	3
危険な遊びの禁止	20	4
生物に関する解説	13	13
バイク・自転車の乗り入れ禁止	11	2
バーベキュー禁止	10	2
花火禁止	9	1
増水	8	1
湧水の飲用	8	1
駐車場の利用	5	2
ポート	5	5
公園名	3	2
施設案内	8	6
地図	2	1
ため池	3	2
宝くじによる植樹	2	1
水遺産	1	1
江津湖に関する解説	2	2

5. まとめ

水前寺江津湖公園の現在の姿について、歴史文献、過去の整備図面と実空間を分析することによって、江津湖公園は各時代のニーズに対応し多様な公園整備を行ってきたものの、熊本市民にとって身近な憩いの空間としての機能は一貫していることがわかった。

謝辞: 本研究を進めるにあたり、資料提供やヒアリング調査にご協力いただいた熊本県、熊本市、水前寺江津湖公園管理事務所の方々に深く感謝の意を表す。

参考文献: 1) 熊本県, 昭和63年度水前寺江津湖公園単県都市公園計画調査(測量設計)委託業務 広木地区基本設計説明書, pp. 1-21, 1989 2) 阿部伸太, 都市の公園緑地計画における風致地区の意義, 造園雑誌 56(5), pp. 317-318, 日本造園学会, 1993